

財団法人日本アレルギー

協会関東支部

〒102-0074

東京都千代田区九段南 4-5-11

富士ビル 4 階

TEL 03-3222-3437

FAX 03-3222-3438

ホームページ

http://www.jaanet.org/aboutus/4_index_msg.html

関 東 支 部

だ よ り

第 5 号 (2009 年 1 月発行)

会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。昨年の後半より世界は急激に不況に突入し、生活困窮者が日に日に増えつつある状況であります。この不況は当関東支部に何らかの影響があるかもしれません。早い時期に事態の改善がもたらされることを期待したいとおもいます。

昨年は会員のご協力で、当関東支部も、アレルギー週間での市民講座の開催、研究支援、患者団体支援等の活動をおこないましたが、本年度も引き続き、同様の活動をおこなう予定です。

日本アレルギー協会は現在、厚生労働省の認可による財団法人ですが、昨年 12 月に施行された新しい制度により、一旦従来通りの監督を受ける特例民法法人となり、5 年以内に税制面で優遇措置があるが審査のきびしい公益財団と一般財団にいずれかを選んで申請する必要があり、目下理事会で検討が進んでいます。組織の変革も伴うようです。方針が決定されしだい、関東支部の対応も役員会で検討することになります。経過については順次お知らせしたいと思います。

さて、本号は半年毎に発行していますが、早くも第 5 号となりました。今回のトピックスは「小児アレルギー最近の話題」のテーマで神奈川県立こども医療センターアレルギー科部長 栗原和幸先生に執筆していただきました。

尚、一部の行事予定資料入手の関係で発行が遅れたことをお断りします。

では皆様、本年もお元気でご活躍ください。

関東支部長 伊藤 幸治

本号の目次	頁
1. トピックス 小児アレルギーに関する最近の話題 栗原 和幸	2~4
2. 関 東 支 部 役 員 会 議 事 録	4~5
3. アレルギー協会主催・共催・後援の講演会	6
4. 患者団体講演会、集会(山梨、長野県を含む関東地区 2009 年 1~7 月)	7~8
5. 社団法人日本アレルギー学会専門医制度における認定学会・講習会・研究会	9~12

1. トピックス

小児アレルギーに関する最近の話題

栗原和幸（神奈川県立こども医療センターアレルギー科）

小児アレルギーに関する最近の話題として、小児気管支喘息の治療・管理ガイドラインの改訂と、食物アレルギーに対して積極的に摂取することで耐性を誘導する治療法など新しい考え方、という2点を取り上げてみたい。

1) 小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2008

小児気管支喘息治療・管理ガイドライン（以下 JPGL）2008 が、昨年 12 月に上梓された（日本小児アレルギー学会、小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2008、西牟田敏之、西間三馨、森川昭廣監修、協和企画、2008 年 12 月、東京）。2000 年の初版から 3 回目の改訂である。

（1）JPGL の特徴

JPGL は小児喘息のみを対象としている点が大きな特徴であり、恐らく世界で唯一のものであろう。国際的ガイドラインである GINA (Global Initiative for Asthma) 2006 では、5 歳以下の小児喘息はデータが欠如しており、それ以上の年齢と同様にまとめることは困難で、冒頭の Executive Summary に「5 歳以下の小児における喘息の管理」としてまとめている。JPGL2008 ではこれまで通り、乳児（2 歳未満）、幼児（2～5 歳）、年長児（6～15 歳）の 3 つの年齢層に区分している。Evidence Based Medicine を旨とするガイドラインで、乳児喘息に対して明確な指針を示すのは容易ではないが、JPGL ではエビデンスとこれまでの経験とをうまく調和させてまとめている。

（2）年齢別の長期管理薬

乳児喘息の長期管理では、ステップ 2 の基本療法はロイコトリエン受容体拮抗薬 and/or DSCG 吸入で、追加治療として吸入ステロイド薬を推奨している。幼児ではロイコトリエン受容体拮抗薬 and/or DSCG あるいは吸入ステロイド薬、年長児では吸入ステロイド薬あるいはロイコトリエン受容体拮抗薬 and/or DSCG となっており、年長になるほど早い段階で吸入ステロイドが推奨されている。これまではロイコトリエン受容体拮抗薬ではなく抗アレルギー薬と表現されていた。他の抗アレルギー薬を選択することもあり得るが、一般的にはロイコトリエン受容体拮抗薬が推奨される。

（3）長期管理薬としての経口₂刺激薬

ステップ 3 以上の併用薬として₂刺激薬があるが、これまで経口₂刺激薬は乳児、幼児には掲載されていたが年長児には吸入薬と貼付薬しかなかった。我が国の成人喘息ガイドラインには「長時間作用性₂刺激薬（吸入/貼付/経口）」と表現されているので、全年齢層の中で年長児にだけは経口₂刺激薬が推奨されていなかった訳であるが上下の年齢層との統一を図った。現状では経口₂刺激薬が安易に漫然と使用されているとの指摘があり、この点は筆者も同感であるが、この改訂によって経口₂刺激薬の長期使用は、ステップ 3 という判断の元に、十分な基本的治療薬に追加する併用薬という意識を持たなければならないことを明確に示したことになる。

（4）その他の改訂

治療目標（第 8 章）に、あらたに「気道過敏性が改善」という項目が追加された。スポーツも含め日常生活を普通に行うことができる、などの項目と重複する印象もあるが、表面的に発作がないことだけを目指すのではなく、一步掘り下げたものになったといえる。

また、長期管理を成功させるためには継続的な患者の評価が重要であるが、JPAC,C-ACTなどの簡易判定法が紹介された。

2) 食物アレルギーの最近の話題

食物アレルギーについては、喘息と比べると色々な情報がまだ充分整理されていない。

(1) 食物アレルギーの診断

食物アレルギーに関する大きな問題点は信頼性の高い客観的な診断法が確立していないことである。日本小児アレルギー学会では食物アレルギーのガイドラインを作成している(食物アレルギー診療ガイドライン 2005、向山徳子、西間三馨監修、協和企画、2005年11月、東京、以下JPGFA)。特異IgEが高値であるというだけでその食品の除去を指導されている症例にしばしば遭遇するが、JPGFAには「特異的IgE抗体陽性の所見のみで除去食を行ってはならない(P.49)」と書かれている。では、どうやって判断するか?最終的には食べてみるしかなく、家庭で少量を試すことを指導したり、医療機関で負荷試験をすることになる。これはなかなかやっかいなもので、危険性もあり、時間を要し、心理的な反応で混乱する場合もある。食べてみようという指導は除去の指導に比べると骨が折れる。しかし、不必要な食物除去を漫然と強いられている状況は打開しなければならない。

(2) 予防的食物除去

食物アレルギーの原因になりやすい食品を食べなければ食物アレルギーを予防できるのではないか、ということは到達しやすいアイデアである。しかし、その試みの多くは失敗に終わっている。米国小児科学会は2000年に、アレルギーハイリスク乳児は危険性の高い食品の離乳食での導入を遅らせる声明を出しており(例えば卵は2歳、ナッツ類、魚は3歳になってから)これはJPGFAにも紹介されている(p.38)。しかし、米国小児科学会は、その方針には科学的な根拠がないので撤回すると昨年発表している(Greer,FR,et al, Pediatrics,2008;121:183)。

(3) 経口耐性誘導療法

これまで食物アレルギーに対しては積極的な治療という概念はなく、除去を続けて耐性獲得を待つ、というのが一般的な方針であった。しかし、アレルギーのある食品も、症状を起こさない微量から漸次、増量を図りながら摂取する方が耐性化が早まるのではないか、という考えが広まりつつある。経口摂取した蛋白に対しては免疫反応が強く抑制されるという概念(経口免疫寛容)は20世紀初頭から繰り返し動物実験などで示されてきたことであるが、その現象をやっと治療に応用する状況に到達したと言える。すでに1990年代にこの方法論についてのPro-Con debateがあり(Wuthrich,B, Monogr Allergy 1996;32:236. Bahna,SL, Monogr Allergy 1996;32:233),前述のGreerらもこの免疫現象に触れている。減感作療法 hyposensitization と呼んでいるものもあるが近年は特異的経口耐性誘導 specific oral tolerance induction (SOTI) という呼び方が増えている。その免疫学的な機序として分泌性IgA産生の他に、調節性T細胞(regulatory T cell) T細胞アナジー(anergy) T細胞クローン除去(clonal deletion)などが考えられているが全貌は充分明らかにはなっていない。新しい報告にはLongo G, J Allergy Clin Immunol 2008;121:343, Staden U, J Allergy Clin Immunol 2008;122:418 などがある。

我々は一昨年から急速法 rush SOTI によるアナフィラキシー症例の治療を試みており、著効例を経験し(伊藤直香、他、日本小児アレルギー学会誌、2008;22:648)、本療法が食物アレルギーの有力な治療法になることを期待して、研究を続けている。食物アレルギー

に関する新しいとらえ方について拙著（日本小児アレルギー学会誌、2008;22:737）を参照して頂ければ幸いです

2. 関東支部役員会議事録

1 日時 平成20年7月30日（水） 18時30分から20時

2 場所 LEVEL 東京會館

3 出席者 伊藤 幸治 足立 満 久保 恵嗣 栗原 和幸 坂本 芳雄
眞野 健次 溝口 昌子 森田 寛 山口 正雄

4 議長 支部長 伊藤 幸治

支部長から、幹事25名中出席者は9名、欠席者は16名、うち12名から委任状をいただいておりますので会議は成立する旨宣言した。

5 議事

報告事項

(1) 役員選挙結果報告

支部長から資料1に基づき、理事候補8名、評議員候補10名、支部長選挙結果をそれぞれ報告した。

(2) 理事会報告

支部長から資料2に基づき、第15回アレルギー週間行事の計画について説明した。

審議事項

(1) 平成19年度事業概要報告

支部長から資料3に基づき説明し、全員に承認された。

(2) 平成19年度収支決算報告

事務局から資料4に基づき説明し、全員に承認された。

寄付金収入は研究助成の経費に当てるが、年度末に寄付金を受け入れたために繰越が増えてしまった。従って内部留保も増えてしまった。

(3) 平成20年度事業計画

支部長から資料5の基づき説明し、全員に承認された。

(4) 平成20年度収支予算

事務局から資料6に基づき説明し、全員に承認された。

(5) 平成20年度役割分担

支部長から資料7に基づき、

関東支部だより編集委員会を新たに設け、委員長を支部長、副委員長を山口幹事としたいと提案があり、了承された。

「研究助成委員会には、委員会と審査部会があり審査部会審査で問題があった場合、委員会を開くことになっている」と説明があった。

に関し、審査部会の委員長と委員会の委員長は別の人が望ましいとの意見があった。そこで、支部長より、「委員会メンバーの約半数は委員会メンバーと共通なので、審査部会長が委員長も兼ね、審査部会審査で問題があった場合、委員長が委員会を招集することにしてほしい」と要望があり、了承された。しかし、来年度の役員会で再度検討することにした。

また、役員より地区別の委員に人事異動があり、地区別分担の見直しが必要であるとの指摘があ

り、城東地区、城西地区につき訂正することにした。

その他

(1) 平成19年度個人会員状況

事務局から資料8に基づき説明した。

(2) 関東支部だよりの発行について

支部長から次のような説明があった。

現在、年2回発行し、本年6月に第4号を発行した。その内容は、会員の利便のために、関東支部の活動状況、向こう約半年間の関東地区での日本アレルギー協会主催・共催・後援集会、日本アレルギー学会主催・共催・後援集会、および患者団体主催集会等を紹介している。また、トピックスを関東地区の先生に執筆を依頼している。

昨年の役員会でメーカーからの広告を募って、作成費にあててはどうかという意見があった。現在、協会本部より医師向けに「Infoallergy」、患者向けに「Allergy Today」という立派な機関紙が発行されている。従って、それらと同様の内容にする必要はないだろう思っているので、当分、関東支部だよりは従来どおりの内容で作成したい。メーカーからの広告については、調査中である。

今回は12月か1月の発行予定であるが紙質は現在より良くしたい。

以上を以って議事を終了し支部役員会は閉会となった。

3. アレルギー協会主催・共催・後援の講演会（山梨、長野県を含む関東地区 2009年1~7月）

* 一般向け

主催・共催 ・後援の別	日 時	テーマ・内容	場 所	主 催 者
主催*	2月21日(土) 13:00-17:00	第15回アレルギー週間中央講演会 ～アレルギーの克服に向けて～ 「アレルギー疾患の予防・治療」 講演とパネルディスカッション 森田 寛(総合司会) 大久保公裕(ア レルギー鼻炎) 海老澤元宏(食物アレ ルギー) 江藤隆史(アトピー性皮膚炎)	九段会館 千代田区九段南1-6-5 東京メトロ東西線、半 蔵門線、都営地下鉄新 宿線「九段下」下車徒 歩1分	日本アレルギー協 会 参加申し込み方法 は日本アレルギー 協会 ホームペー ジ参照 お問い合わせ先: 第15回アレルギー 週間中央講演会事 務局 TEL 03-5159-7750 FAX 03-5159-7760
主催*	2月8日(日) 14:00-16:00	山梨アレルギー市民フォーラム2009	山梨大学医学部 臨床小講堂	日本アレルギー協会 (山梨地区責任者 増山 敬祐)
主催*	2月14日(土) 13:00-16:00	市民公開講座2009	埼玉県三郷市文化会 館 1階小ホール	日本アレルギー協会 (埼玉地区責任者 永田 真)
主催*	2月22日(日) 14:00-16:00	アレルギー患者相談会 「アレルギー疾患の予防、治療法をよ り良く知るために」	横浜新都市ビル(そご う)9階市民フロア ミーティングルーム	日本アレルギー協会 (神奈川地区責任 者 秋山 一男)
主催*	2月28日(土) 13:00-16:00	千葉ブロック東部地区市民公開講座 「アレルギー・アトピーの克服に向け て～ こどものぜん息、早くみつけて早くな おそう～」	千葉県東総文化会館 小ホール	日本アレルギー協会 (千葉地区責任者 富岡 玖夫)

4. 患者団体講演会、集会（山梨、長野県を含む関東地区 2009年1~7月）

会員以外の方でも自由に参加できます

日 時	会 名	会 場	主催団体、連絡先
2月11日(祝日) 13:00~16:00	「家族と専門医が一緒 に作った小児ぜんそく ハンドブック2008」 について(演者・未 定): 「アレルギーの最新 情報:免疫療法につい て」齋藤博久(国立成 育医療センター研究所 免疫アレルギー研究部 部長)	青山こどもの城: http://www.kodomono-shiro.or.jp 渋谷区/表参道駅下車すぐ	NPO 法人アレルギー児を支え る全国ネット「アラージーポッ ト」 http://www.allergypot.net TEL 090-4728-5421
2月21(土)~22日(日) 13:00~16:00 21日(土)ぜんそく 22日(日)アトピー 性皮膚炎	第15回アレルギー週 間協賛行事:ぜんそ く・アトピー性皮膚炎 交流座談会 「ぜんそくをもっとよ くするために」患者交 流会 「アトピー性皮膚炎と 上手に付き合うため に」 患者交流会	NPO 法人日本アレルギー友の会 事務所(都営新宿線・半蔵門線住 吉駅、JR 錦糸町駅より都バス「住 吉駅前」下車徒歩3分)	NPO 法人日本アレルギー友の 会 TEL 03-3634-0865(毎週火・ 土曜日 11:00~16:00) FAX 03-3634-0850 E-mail: j-allergy@nifty.com http://www.allergy.gr.jp/
3月14日(土) 13:00~16:30	食物アナフィラキシー 親子のための学習懇談 会「最新情報と栄養指 導」(仮題): 今井孝成(国立病院機 構相模原病院小児科医 師)=予定、林典子(同 臨床研究センター栄養 士)、長谷川実穂(同)	かながわ県民センター15F 会議 室 (横浜駅西口徒歩5分 横浜市 神奈川区鶴屋町2-24-2) TEL 045-312-1121	NPO 法人アレルギーを考える 母の会 FAX 045-362-3106 E-mail: m-sonobe@cf6.so-net.ne.jp

5月中旬	講演会&医療相談会： 講師等、未定	国立病院機構相模原病院 臨床 研究センター 3F 研修室 小田急線小田急相模原駅下車徒歩 10分	国立病院機構相模原病院アレルギーの会 http://allergy-net.web.infoseek.co.jp/kanja/
5月24日(日) 12:30~16:00(予定)	創立40周年記念講演 会とQ&A きっと良くなるぜん そく・アトピー最新治 療 「アトピー」川島眞(東 京女子医科大学皮膚科 主任教授)成人ぜんそ く」足立満(昭和大学 医学部第一内科主任教 授)「小児アレルギー」 勝沼俊雄(東京慈恵会 医科大学小児科診療医 長)「Q&A」坂本芳雄 (関東中央病院呼吸器 アレルギー内科部長)	東医健保会館(東京都新宿区) TEL 03-3353-4311 JR 信濃町駅下車徒歩5分	NPO 法人日本アレルギー友の 会 TEL 03-3634-0865(毎週火・ 土曜日 11:00~16:00) FAX 03-3634-0850 E-mail:j-allergy@nifty.com http://www.allergy.gr.jp/

5. 社団法人日本アレルギー学会専門医制度における認定学会・講習会・研究会（* 関連学会）（山梨、長野県を含む関東地区 2009年1月~7月中旬）

以下は社団法人日本アレルギー学会の許可を得て、同会誌「アレルギー」2008年12月号（57巻12号）1376-1382頁、会報「専門医制度情報 社団法人日本アレルギー学会専門医制度における認定学会・講習会・研究会開催予定（2009年・国内）より山梨、長野県を含む関東地区1~7月中旬分を抜粋して転載した。（*は関連学会）

回	会名	会期	会場	担当施設・連絡先	会長
7	横浜小児アレルギー研究会	1月21日(水) 19:00~21:00	横浜ベイシェ ラトンホテル	神奈川県立こども医療セン ターアレルギー科 神奈川県横浜市南区六ツ川 2-138-4	栗原和幸 045-711-2351
16	城東地区小児アレルギー懇話会	1月24日(土) 17:00~19:00	第一ホテル両 国	同愛記念病院小児科 東京都墨田区横網 2-1-11	向山徳子 03-3625-6381
	アレルギー性鼻炎フォーラム 2009	1月24日(土)	パレスホテル	新橋アレルギーリウマチ クリニック 東京都港区新橋 16-1 ニュー 新橋ビル 318	奥田 稔 03-3591-5464
54	関東耳鼻咽喉科アレルギー懇話 会	1月25日(日) 14:00~17:00	日本教育会館 (東京)	聖路加国際病院耳鼻咽喉科 東京都中央区明石町 9-1	今井 透 03-3541-5151
14	アレルギー臨床懇談会	1月	未定	国立成育医療センターアレ ルギー科 東京都世田谷区大蔵 2-10-1	(担当) 成田雅美 03-3416-0181
5	埼玉アレルギー性鼻炎フォーラ ム	2月5日(木) 18:50~21:00	浦和ロイヤル パインズホテ ル	獨協医科大学越谷病院耳鼻 咽喉科 埼玉県越谷市南越谷 2-1-50	渡邊建介 048-965-1111
	リウマチ・アレルギーシンポジ ウム	2月7日(土) 13:00~16:30	はまぎんホー ルヴィアマ レ	日本予防医学協会健康増進 開発本部(市川英一) 東京都江東区毛利 1-19-10 TEL:03-3635-1153	(理事長) 濱田洋一
33	埼玉喘息・アレルギー研究会	2月7日(土) 14:40~18:25	埼玉県県民健 康センター1F 大会議室	獨協医科大学越谷病院呼吸 器内科 埼玉県越谷市南越谷 2-1-50	長尾光修 048-965-1111
27 *	日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー 学会	2月12日(木) ~14日(土)	三井ガーデン ホテル千葉	千葉大学大学院医学研究院 耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学教 室 千葉県千葉市中央区亥 鼻 1-8-1	岡本美孝 043-226-2137

9	食物アレルギー研究会	2月14日(土)	東京慈恵会医科大学 1号館講堂(3F)	国立病院機構相模原病院臨床研究センターアレルギー性疾患研究部 神奈川県相模原市桜台 18-1	海老澤元宏 042-742-8311
15	城東ブロックアレルギー懇談会	2月26日(木) 19:00~21:00	東武ホテルレバント東京 4F「錦の間」	同愛記念病院小児科(山口公一) 東京都墨田区横網 2-1-11 TEL:03-3625-6381	馬場 実
6	日本喘息・COPD フォーラム/ Japan Asthma COPD Management Forum (JASCOM)	2月28日(土)	パシフィコ横浜アネックスホール	JASCOM 事務局 東京都渋谷区桜丘町 2-9 カスヤビル 1F(株)プラップジャパン TEL:03-3486-5961	足立 満 (昭和大学) 永井厚志 (東京女子医科大学) 西牟田敏之 (国立病院機構下志津病院)
17	関東アレルギークラブ	3月7日(土) 14:00~	ロイヤルパークホテル(東京)	帝京大学医学部内科呼吸器アレルギー科 東京都板橋区加賀 2-11-1	(当番世話人) 大田 健 03-3964-1211
24	多摩小児アレルギー臨床懇話会	3月7日(土) 15:00~18:00	日本医科大学附属多摩氷山病院 C棟 2階集会室	山口小児クリニック 東京都町田市野津田町 1364 TEL:042-736-1121	飛田正俊
69	小児アレルギー同好会	3月7日(土) 16:00~18:00	ホテルグランドパレス(東京)	東京慈恵会医科大学小児科 東京都港区西新橋 3-25-8	勝沼俊雄 03-3433-1111
6	信州喘息・COPD 勉強会	3月14日(土) 17:30~	ホテル紅や	信州大学医学部内科学第一講座 長野県松本市旭 3-1-1	久保恵嗣 0263-37-2629
62	横浜市アレルギー懇話会	3月18日(水) 19:00~20:30	横浜エクセルホテル東急	横浜市立大学附属市民総合医療センター小児総合医療センター(事務局長 相原雄幸) 神奈川県横浜市南区浦舟町 4-57	池澤善郎 (横浜市立大学大学院環境免疫病態皮膚科学教授) 045-787-2800

6	西関東アレルギーカンファレンス	3月28日(土) 17:00~19:30	八王子京王ブラザホテル	横浜市立みなと赤十字病院 アレルギー科(担当世話人 中村陽一)神奈川県横浜市中 区新山下3-12-1 TEL:045-628-6100	増山敬祐 (山梨大学) (事務局) 野間 剛 (北里大学)
9	小児免疫リウマチ研究会	4月10日(金)	八重洲富士屋ホテル	埼玉県立小児医療センター 感染免疫科 埼玉県さいたま市岩槻区大 字馬込2100	(代表世話 人) 大石 勉 048-758-1811
11	小児吸入療法フォーラム	4月11日(土) 16:00~19:00	経団連会館	国際医療福祉大学附属三田 病院小児科 東京都港区三田1-4-3	(代表) 増田 敬 03-3451-8121
3	城南小児アレルギー懇話会	4月23日(木) 19:15~21:00	目黒雅叙園	(財)東京都保健医療公社 荏原病院小児科 東京都大 田区東雪谷4-5-10	松井猛彦 03-5734-8000
53 *	日本リウマチ学会総会・学術集 会	4月23日(木) ~26日(日)	グランドプリ ンスホテル新 高輪	東京女子医科大学東医療セ ンター整形外科・リウマチ科 東京都荒川区西尾久2-1-10	井上和彦 03-3810-2900
36	耳鼻咽喉科アレルギー懇話会	6月6日(土) (予定)	(未定)	日本臨床アレルギー研究所 東京都港区新橋2-16-1 ニュー新橋ビル	奥田 稔 03-3591-5464
49 *	日本呼吸器学会学術講演会	6月12日(金) ~14日(日) 8:30~17:00(予 定)	東京国際フォ ーラム	日本呼吸器学会事務局 東京都文京区本郷3-28-8 日内会館7F TEL:03-5805-3560	永井厚志
23	アレルギー・好酸球研究会2009	6月20日(土) 9:00~17:00(予 定)	大手町サンケ イブラザ	(事務局分室) 東京都港区赤坂2-20-2 ベル 赤坂1F(株)グラフィティ TEL:03-3583-1740	茆原順一 (秋田大学医 学部臨床検査 医学)
63	臨床アレルギー研究会(関東)	6月20日(土) 13:00~	富国生命ビル 28階会議室	国際医療福祉大学三田病院 眼科 東京都港区三田1-4-3	藤島 浩 03-3451-8121
28	漢方免疫アレルギー研究会	6月27日(土) 13:00~18:00 (予定)	東京ステーシ ョンコンファ レンス	CRD 研究所 東京都文京区本郷2-9-8 朝風 ビル9階	(理事長) 福地義之助 03-3812-8473
18	小児臨床アレルギー懇談会	6月27日(土)	ラフレさいた ま	埼玉医科大学小児科 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂 本郷38	小田島安平 049-276-1219

84	臨床免疫セミナー	7月3日(金) 18:30~20:45	東京都新宿区 (予定)	国立病院機構相模原病院臨 床研究センター (担当世話人 森 晶夫) 神奈川県相模原市桜台 18-1	野間 剛 (北里大学医 学部小児科)
30	臨床アレルギー懇話会	7月9日(木) 18:30~20:00	東京慈恵会医 科大学 1号館 5階講堂(予 定)	東京慈恵会医科大学耳鼻咽 喉科(松脇由典) 東京都港区西新橋 3-19-18 TEL:03-3433-1111	桑野和義 03-3433-1111
30	日本炎症・再生医学会 (第9回国際炎症学会7月6日 (月)~10日(金)合同開催)	7月9日(木) ~10日(金)	京王プラザホ テル	(事務局)日本コンベンショ ンサービス(株)メディカル カンパニー 東京都千代田 区霞ヶ関 1-4-2 大同生命霞ヶ 関ビル 18F TEL:03-3508-1214	山本一彦 (東京大学大 学院アレルギー ・リウマチ 科教授)

<p>発行者 財団法人日本アレルギー協会 関東支部長 伊藤幸治</p>
